



母ぬ島、石垣島の陶芸×上布×写真展。

琉球・沖縄の「アルカイックな美」を撮り続けている仲程長治の写真作品。その母、光子がブー(苧麻)から紡いだ糸で織り上げた繊細な八重山上布。そして、窯焚き陶芸家のポール・ロリマーが、石垣島の野生の土から生み出した陶芸作品。三人三様のクリエイションに、母なる島、石垣島の自然が呼応します。沖縄の南方、石垣島から届く光と風を、お楽しみください。



【同時開催】
仲程長治がアートディレクションとグラフィック撮影をつとめる、琉球・沖縄発信のビジュアル・カルチャーマガジン『モモト』。その30号の発行を記念して、バックナンバー展を同時開催いたします。

知恵に輝かしい GALLERY **冊** さつ **ギャラリー冊** SATSU

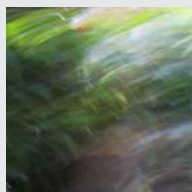
Tel.03-3221-4220
http://www.satsu.jp

【アクセス】
東西線・半蔵門線・都営新宿線
九段下駅 2番出口徒歩10分
千鳥ヶ淵緑道沿い向かい側

*ギャラリー店舗入り口は、建物南角扉です。
居住者用入り口(木製扉)とお間違いないようお願いいたします。
*専用駐車場はございません。
敷地内付近の路上駐車はご遠慮願います。



ポール・ロリマー Paul Lorimer
1954年ニュージールランド、オークランド生まれ。1977年に来日。岡山県で備前焼を学んだのち、1980年、旅の途中に立ち寄った石垣島の自然に感銘を受け、穴窯を築窯。そのまま16年を過ごす。1996年、沖縄本島に移住。「沖縄の自然の土を使い、薪で焚く」をモットーとし、土作りから作陶、窯焚き、築窯まですべて自身で行なう。旨い古酒(泡盛)を育てる。酒龜作りに力を入れているほか、食器、シーサー、ランプ、スピーカーなど、自由なスタイルの作品づくりを目指している。



仲程長治 Nakahodo Choji

1959年、石垣島生まれの写真家、デザイナー。20代の頃より、ロゴ制作やタイポグラフィなど、沖縄県内であらゆる分野のアートデザインを手がける。現在は、琉球・沖縄の文化誌『モモト』のAD、専属写真家としても活動中。昨年の秋、生まれ育った八重山・石垣島をテーマにした二冊目の作品集、『母ぬ島・Mother Islands』を発売。